

# 番組審議委員会議事録

株式会社 衛星劇場

1. 開催年月日 平成 14 年 7 月 22 日（月） 12：00～13：00
2. 開催場所 株式会社 衛星劇場 会議室
3. 委員の出席 委員総数 7 名  
出席委員数 6 名（小山観翁、山内静夫、堀江ミエ子、伊藤信太郎、  
田中康義、品田雄吉）  
欠席委員数 1 名（中村芝翫）
4. 放送事業社側出席 8 名（石川富康[代表取締役・社長]、須田真司[代表取締役・  
副社長]、山崎克己[取締役・編成担当]、小山宜康[取締役  
役・広報担当]、長谷川一郎[取締役・営業担当]、秋元  
一孝[製作部長]、深田誠剛[編成部長]、尾崎誠[編成課  
長]）
5. 議事の概要
  - ・衛星劇場及びホームドラマチャンネルの現状報告
  - ・今後の衛星放送事業のありかた
  - ・その他
6. 議事内容
  - 現状報告
    - ・衛星劇場及びホームドラマチャンネルの現状
    - ・上記加入者に関する分析の報告
  - 今後の放送予定と出資作品
    - ・衛星劇場の出資作品の説明
  - スカイパーフェク TV! の今後について
    - ・スカパーとスカパー 2 の現状と今後の見通し

(議事詳細)

石川社長 : 本日はお忙しい中、お集まりいただきまして誠にありがとうございます。

永山会長、大谷社長が代表取締役を退任されて、私が社長に就任いたしました。今後ともよろしくお願ひします。では、衛星劇場の現状から説明させていただきます。

我が社も創業は平成4年なので、ちょうど10年経ちました。平成5年4月より有料放送が始まったのですが、10年もやっているとマンスリーで100本以上の作品を放送していくのは苦しくなってきました。チャンネルが沢山出てきているので、ソフトの流出が増えてきています。そのために再映ばかりで質が落ちた放送になってしまいます。親会社の松竹の製作がなくなっているため、ソフトの確保が難しい現状です。東映はゼロ、東宝は10作品くらいはありますが、新作ではないので質は下がってしまいます。いずれにしてもソフトの調達が一番苦勞している点ですね。いろいろな映画にも出資していますが、映像事業で考えると採算がとれませんが、番組調達という考えで今はおこなっています。CSの放送権を買っていくというやり方を今後も続けていきたいと思っています。客離れが激しくなっているため、いずれも苦しい状況です。月々1800円は高いとは分かっていますが、半額にしたところで、倍の人が加入するわけではないので、下げたくても下げられないというのが本音です。

スカパーの状況などを須田副社長説明してください。

須田副社長 : スカパーは6月のワールドカップで過去最高の加入者を得ました。その後の推移はというと、映画系チャンネルにはなかなか流れてこなかったのが現状です。夏から秋は、映画を推していこうというスカパーの方針があるようなので、それで少しでもこちらに流れてくれればと思っています。

またスカパー2は、サイマル放送なので、新たにお客さんを獲得するのは難しいと思われます。テレビの買い替えをする際に、BSデジタルとCS110度のチューナーが内蔵されているものを買っているようですが、それを買えるような人は所得の多い人です。よって加入年齢が高くなっているというのが現状ですね。アダルトが放送不可なので、今後はホームドラマをやっていくというようなことも考えながら放送していくことが必要になって来ると思います。

石川社長 : 今後の方針を簡単に説明してください。まず編成担当の山崎取締役。

山崎取締役 : 番組編成は今後もかなり苦しい状況にあることは間違いありません。新作が少ないのですが、どのようなものに出資していくかは、まだまだ考えていく必要がありますね。CSでうちでしかできないものを放送していくことが、大事だと思っています。また最近はリクエストに応じていくことが多くなっていますが、どうしても白黒が多いので、お客さんの中にはそんなものは観たくないという意見もあります。しかし、うちの放送の特性としては、今後も続けていきたいと思っています。

石川社長 : では、出資作品について秋元部長お願いします。

秋元部長 : 今年の6月までに公開された中では『ミスター・ルーキー』が興行でもそこそこ当たった作品で、『ハッシュ!』は興行も評価もとてもよかったことがあげられます。『春の日は過ぎゆく』『青い春』は夏休みに向けてかなりの動員が予想されます。秋以降でかなり期待しているのが『OUT』で前評判がよく、うちの出資作品としては相当の出来だと思います。自信をもってお勧めいたします。また山田洋次監督初の本格時代劇『たそがれ清兵衛』や、『壬生義士伝』は浅田次郎原作でテレビドラマがとても面白かった作品で、台本はかなりいい仕上がりになっていてこちらでも期待できます。また小粒ながらも『刑務所の中』『東京原発』『AIKI』も見逃せないと思います。韓国映画は当りはずれがあるものの、インターナショナルになってきているので、邦画で補えないものを韓国映画をはじめとするアジア映画でうめていくスタンスでいきます。

石川社長 : ではホームドラマの説明を尾崎課長お願いします。

尾崎課長 : 8~10月にかけてもアニメ、特撮、時代劇を中心に放送していきます。基本的には民放で放送していた作品を放送しています。松竹テレビ部を中心に放送していますが、リクエストも来ているので、これからはなるべくお客様のリクエストにも応えていけるようになると思っています。

石川社長 : 映画製作に国から助成金が 1000 万～2000 万出てますが、まだまだ足りませんね。撮影所の規模も小さくなってきているので、こういったものにも国としても力を入れて欲しいですね。  
さて、うちの放送でアダルトが視聴率ほどの作品よりもいいのですが、ケーブルサイドからアダルト番組の評判はどうですか？

堀江委員 : 衛星劇場のアダルトはストーリー性があるという意見をよく耳にします。いくらアダルトの視聴率がいいと言っても、何でも放送するわけではないと思いますが、どういう基準で放送しているのでしょうか？

石川社長 : アダルトの視聴率ほどの作品よりもいいです。でもおっしゃるように、何でも放送している訳ではなく、劇映画と言われるものを放送し、一定枠を越えないようにはしています。そのためにも私共は、CS 成倫を通して、アダルトチャンネルに規制をかけようとしています。  
品田さんは WOWOW などの審議委員をいらっしゃいますが、全体的にどうですか？

品田委員 : WOWOW の方でもお客様は減ってきています。デジタルへの移行で減ってきているのでは、と思っています。映画のソフトも無限ではないので、この事業をしていくことはとても大変です。CS チャンネルもたくさんあります。そのために選択肢が増えて選ぶ方もかなり大変ですね。中でも傑出したものがないとどこに入っているかわからないというのが、お客様の立場ではないでしょうか。

石川社長 : 国会で総務委員のメンバーである伊藤さんはいかがでしょう？

伊藤委員 : 映像情報、著作権を主に担当しています。今後は映画もインターネットを利用しての放送になっていくだろうと思いますが、課金システムをちゃんとしていかないとだめだと思います。1 社ではなかなか難しいので、共同で行なっ

ていくことも必要なことではないでしょうか？また今の著作権法では難しいことが沢山あります。いろいろなところに了承を得てからでないと放送はできないので。

小山委員 : NHK のライブラリーには莫大なソフトが眠っています。せっかくあるソフトが宝の持ち腐れでうまく活かされていないのは、とてももったいないことだと思います。

伊藤委員 : それも著作権にからんできますね。何段階にもおよぶ権利問題をクリアしていくとなると、放送までに大変な手間がかかります。これをクリアできれば、少し前に進むのではないのでしょうか？

石川社長 : 山内委員、最後にケーブルの立場からお話いただけますか。

山内委員 : 有料チャンネルはどこも厳しい状況で、うちも衛星劇場さんのお力になかなか出来ません。お金を払うということに対して、お客さんが敏感になっているみたいで、勧めすぎても今度は堅く拒まれてしまったりと、加入がなかなか伸びません。年代別にみると、時間がある 30~40 代あたりの加入が多いけれど、それ以上、70 代を越えると、年金で暮らしている人が多く、加入がめっきり減ってしまいます。まだまだ財布のひもが緩むことはなさそうですね。

石川社長 : 今後とも衛星を取り巻く環境は、一段と厳しくなっていきますが、審議委員の方々の貴重なご意見を活かして、より一層頑張っていきたいと思いますので、何卒よろしく願いいたします。

7. 審議期間の答申又は改善意見に対してとった措置及びその年月日

特になし

8. 審議期間の答申又は意見の概略を公表した場合におけるその公表内容、方法及び月日

特になし

9. その他の参考事項

特になし